

生育目安・目標	適正な 栽植密度	作型	10a 苗立本数	収量構成 のめやす	作型	m ² 当たり株数	1株当たり莢数	m ² 当たり莢数	百粒重	目標収量(製品)			
		単作	10,000本		単作	10株	50莢	500莢	34g	220kg/10a			
		麦跡	14,000本		麦跡	14株	40莢	560莢	30g				
		播種・出芽			分枝・伸長			開花・着莢		登熟(粒肥大)		収穫	

時期	5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上

作業名

排水対策

種子準備
耕起・施肥・播種
除草剤散布

中耕培土

中耕培土

病害虫防除①

開花期

病害虫防除②

病害虫防除③

病害虫防除④

黄葉期

落葉期

成熟期

青立ち株
雑草
除去!!

コンバイン収穫

土づくり

★周囲明渠
★弾丸暗渠
★耕起前除草

★種子消毒の徹底
★鳥害対策の実施
★除草剤散布の徹底

【第1回目】
★子葉節まで

【第2回目】
★初生葉節まで
培土高15cm以下

(★ウコンメイガ・アブラムシの防除)

★適期・適量散布を厳守
★ほ場周辺へのドリフト防止のため液剤対応

【湿害・乾燥対策】
・開花期～粒肥大期は多くの水が必要

★必要により畦間除草剤散布
★開花後は暗渠栓を閉め土壌水分を保つ(雨が降ったときのみ開ける)→状況によっては畦間かん水をする

★収穫の晩限：成熟期より15日頃まで
★刈取時間帯：11時～16時頃

※除草剤の希釈水量を確認し、散布する(散布水量が少なすぎると効果が劣る)★明渠等の点検・整備で湿害回避

作業のポイント

【排水対策】
・消雪後、出来る限り早期にほ場の排水対策を実施する
・ほ場周囲の明渠(排水路につなげる)・弾丸暗渠
・ほ場の団地化、耕起前除草剤の散布
ポイント…降雨後、地表水を24時間以内に排除する

【土壌改良・基肥】(10a当たり) ※地力により増減する
・土づくり 有機物の投入(ケイフン等)
・酸度矯正 マグクリン
・基肥
いすれか施用する
ワンタッチ大豆(緩効性肥料) 60~80kg
国産化成肥料14-14-14 12~24kg
有機入り大豆配合2号 20~40kg

【追肥】(10a当たり)
・湿害による黄化や生育不良などが見られた場合は、速効性肥料により培土時または開花期に追肥する
・地力の低いほ場や連作ほ場は、しわ粒の発生軽減と増収のため、緩効性肥料を2回目培土時に追肥する(ただし、基肥に緩効性肥料を施用した場合は重複施用しない)

【種子準備】
・種子更新 100% ※ルートビーズ種子塗沫処理
・種子処理 (種子1kg:8ml使用) *ルンザ-前に処理

【中耕・培土】
・1回目 播種20~25日後
・2回目 1回目の2週間後
・畝がM字型にならないよう注意する
・開花始めまでに終了する
第2複葉(本葉)

【除草剤散布】 周辺作物に飛散しないように注意する！
下記の各農薬登録状況：令和8年3月31日現在

時期	薬剤名	薬剤量(10a)	備考
耕起前 播種前	ラウドアップマックスD	200~500ml	水量 50~100ℓ(耕起前または出芽前まで)
	タッチウイQ	250~500ml	水量 25~100ℓ(耕起または播種7日前まで)
播種後	覆土直後	クリアー細粒剤F	4~5kg 一年生雑草
	出芽前	クリアー乳剤	500~800ml 一年生雑草 水量 70~100ℓ
	出芽前 ~生長期	プロルプス乳剤	400~600ml 一年生雑草 水量 70~150ℓ
雑草生育期	全面 畦間 処理	パワーガイ-液剤	200~300ml 一年生雑草 水量 100ℓ(雑草発生前期~2葉期 但し収穫30日前まで)
	全面 畦間 処理	ポルトアブル	200~300ml 一年生イネ科雑草 水量 25~100ℓ(雑草生育期~収穫30日前まで)1回
		ワザド P 乳剤	75~100ml 一年生イネ科雑草 水量 25~100ℓ(雑草生育期~収穫60日前まで)1回
		大豆バガ-液剤	100~150ml 一年生雑草(イネ科除く)水量 100ℓ 開花前まで(収穫45日前まで)1回
	畦間 処理	ラウドアップマックスD	200~500ml 一年生雑草 水量 50~100ℓ(雑草生育期~収穫前日まで)2回以内
		タッチウイQ	250~500ml 一年生雑草 水量 25~50ℓ(雑草生育期~収穫前日まで)2回以内
		ガク液剤	300~500ml 一年生雑草 水量 100~150ℓ(雑草生育期~収穫28日前まで)3回以内
		バスタ液剤	300~500ml 一年生雑草 水量 100~150ℓ(雑草生育期~収穫28日前まで)3回以内
	土壌	グッドガル	100~200ml 一年生雑草 水量 100ℓ(雑草生育期~収穫30日前まで)1回以内

【病害虫防除】 周辺作物に飛散しないように注意する！

区分	時期	対象主要病害虫	薬剤名
基幹防除①②	7月第2半旬~8月第1半旬 ※前年多発ほ場は7月の発生要観察	ウコンメイガ	プレバソフロアブル5
		アブラムシ	スミチオン乳剤
基幹防除③	8月20日~25日頃 (開花期4週間後頃)	紫斑病	下記薬剤を混用散布する
		子実害虫	・トライフロアブル ・トレボン(エア-又は乳剤)* *散布体系に合わせて選択
基幹防除④	8月第5半旬~9月第1半旬	紫斑病、 マメシクイガ等	フセキフロアブル プロフレア SC

【刈取】
・完全に落葉し莢が褐色になった頃が成熟期
試し刈りを行い汚粒や損傷粒の発生状況、子実水分(22%以下)等を確認してから適期に刈り取る
・汚粒防止のため、雑草や青立ち株を取り除く
汚粒の発生しやすい時刻は収穫を避ける
刈り取り高さ・土砂の掻き込みに注意する
適期刈り取りに努める

【乾燥・調製】
共同乾燥調製施設へ搬入する

★排水条件の悪い場合…
→『**畝立播種栽培**』で発芽・苗立ちを安定させる

ポイント…開花期や病害虫の発生状況を把握し適期防除、薬剤が株元までかかるように丁寧に散布する